

ロス対策士の皆さん

さて、今回は万引犯を捕捉する保安員の方のお話です。この文章を書いてくださったのはロス対策士の寺嶋良祐さんです。

自分でお読みになるのは勿論、添付ファイルを同僚や友人の方々にお渡しいただくなどしていただければ、嬉しいです。

ロス対策士コミュニティのお知らせ

フェイスブックに「ロス対策士コミュニティ」を設けました。フェイスブックのアカウントをお持ちの方は、是非ご参加ください。

<https://www.facebook.com/groups/919653045344673>

「～孫～女性が万引きした理由とは？」

とある郊外のスーパーマーケット。時間は朝の 10:00 です。先輩の女性保安員(40 代後半)と分かれて店内を巡回していた時、僕は 70 代女性の"違和感"に気がつきます。その女性はカート、カゴの中に"巾着型のトートバック(紐を引っ張ると口が締まるエコバッグ)"を広げ、その中に品物を入れていたのです。

"紐を引っ張れば一瞬で窃取が完了する。"女性はカゴの中にファミリーパックの揚げ物類、パーティセット、お寿司、子供用の玩具菓子などをいくつも入れていました。"間違いない"。僕はカゴに入っている品物から犯行を確信しました。しばらくすると人気のない通路へ入った女性は僕の読み通り、巾着の紐を引っ張り、袋の口を一瞬で閉めて品物の窃取を完了させます。犯行を確認したことを先輩に伝えて、先輩と共に追尾を続行します。女性はその他、パンや野菜などの生活品のみをレジで支払い店舗外へと出ていきました。

『分かるわよね！！』先輩が強い口調で女性に声をかけます。その様子に"恐怖"を露わにする女性が言いました。『何を言っているの！！これ全部、買ってますけど！？泥棒なんてしていません！！』女性は購入しているとして一步も引かず、先輩と激しい問答を繰り返します。『支払いをしていないのは僕がしっかりと確認していますよ』

僕が女性に犯行の手順を順に説明しながら犯行を確認しているとして追及すると、僕の話した"犯行手順"が正確なことから見られていたことを確信した女性が言い逃れを諦め、犯行を認めました。『あんたねえ！！いい加減にきなさいよ！！泥棒をしておいて、嘘までついて！！いい年してほんと情け無い！！』先輩が女性に嘘をつかれ、悪態をつかれた怒りから大声を張り上げて女性を叱責します。

事務所にて店長を前に女性は犯行を認めて謝罪します。しかし、先輩は尚も怒りが収まらないといった様子で言いました。『店長！！全然、反省なんてしてませんから！！』

態度も悪いし、嘘までついて…被害届を出して徹底的にやった方が良くと思います！！』女性はいいます。『先ほどは気が動転していて…あんな態度になりましたが…今は本当に反省しています』その言葉に先輩は怒り表情で声を張り上げます。『いいえ！！反省なんてしてない！！反省したフリをして逃げようとしているだけでしょう？私はプロだから分かるの！！ほんと、いい加減にしろ！！』

先輩の剣幕に押し黙る女。『〇〇さん、なぜ…万引きをしたのでしょうか？』僕は先輩との問答に割って入り、穏やかな口調で女性に動機を尋ねました。女性の窃取した品物は、揚げ物セット、パーティセット、寿司、子供用の玩具菓子。これら、盗品のチョイス(一人では食べられない量と玩具菓子)から女性なりの"意味(犯罪理由)"が隠されていると感じたのです。

『昼過ぎに娘が孫を連れて遊びに来るんです』女性は娘と孫に良いものを食べさせたいという気持ちから1人では到底、食べきれないサイズの豪華な食品を窃取していました。そして、盗品の中にあった玩具菓子…。これは、会いにきてくれた孫にプレゼントするためのものだったのです。

僕が女性に言葉をかけようとした瞬間、『はあ！？盗んだものをお孫さんに食べさせようとしていたの！？ほんと、信じられない！！盗んだものを食べさせるなんて、お孫さんが本当に可哀想だわ！！』先輩が怒り表情で女性を捲し立てます。

『あなたが万引き犯だって知ったらお孫さんはどう思うでしょうね！？恥ずかしくて二度と会いにこられないんじゃない？いい年して、恥ずかしくないの！！』その言葉に女性が声を張り上げました。

『そんなの分かってます！！分かってますよ！！』頭を抑えて、瞳に涙を溜めて声を上げた女。『なに、逆ギレしてるの！！あなた本当に最低よ！！逆ギレして！！怒りたいのはこっちなの！！』先輩の言葉に耳を抑えて女性は言います。『申し訳ないけど…私はあなたとは話したくありません！！もう、何も言わないでください！！』その様子に怒り心頭の先輩。

先輩が女性に怒りの言葉を投げかけるのを制して言います。『先輩、僕が彼女の対応をしますので…申し訳ありませんが僕に任せてもらえませんか？』僕の言葉に先輩は対応を僕に任せて事務所から出て行きました。

『〇〇さん、少しお話してもよろしいですか？』女性は僕となら話をしても良いとして、僕の言葉に耳を傾けます。『そのお菓子、玩具の種類からしてお孫さんは男の子と女の子の2人ですか？』女性は男の子と女の子の2人、孫が居るのだと言いました。

孫について語る女性の表情はどこか寂しげです。そんな、女性に話をします。『〇〇さん、お孫さんへのプレゼントなら、尚更、ちゃんと買ってあげて欲しかったです。盗んだものかどうかはお孫さんには分かりません。ただ、〇〇さんも本当はそうしたいのでしょうか？娘さんとお孫さんのための品物のみを万引きしているのには理由がありますよね？』

僕は女性の表情、そして私欲ではなく娘さんとお孫さんへ提供する品物のみを窃取して

いるところに彼女の"真意"が隠されていると考えました。

しばらく、熟考した女性。あなになら、本当のことをお話ししますと僕に犯行に至るまでの心内を話をしてくれました。『お金に余裕がないのです』女性は年金で生活をしているとして自身の生活費だけでカツカツだと言います。他に贅沢品を購入するような余裕もなく、ギリギリの年金生活を送っていました。旦那さんを数年前に亡くし、1人で送る寂しい生活。

ただ、そんな生活の中で娘と孫に会う事だけが女性の唯一の楽しみ、贅沢な時間となります。遠く離れて暮らす娘夫婦。女性がパートナーを亡くして1人になったことにより寂しい思いをしていないか？娘さんは1人で暮らす母親を想って、月に一度だけ時間をつくり、遠方から孫を連れて遊びに来てくれるようになったのです。

老後の生活に差した一つの光。女性にとって、月一回の幸福のひとつときに女性もまた、遠方から来てくれる娘と孫を想って、ありったけのおもてなしをしようと考えます。しかし、現実はおもてなしができるような金銭的な余裕はありません。最初は無理をして、カツカツの中からなんとか捻り出していたものが…だんだんと苦しくなっていきます。豪華な食卓を囲み、玩具菓子をプレゼントとして喜んでくれるお孫さんと娘さんの表情をみたら、とても、おもてなしをやめるということが出来なくなりました。

"月に一度だけなら"普段は買い物をする店舗で、女性は月に一度の"大切な日"のためだけに万引き犯に変貌するようになったのです。だからこそ、女性は自分で使う品物だけは購入し、おもてなしのための品物のみを窃取していたという訳でした。

『私にはなんの価値もないのです』お孫さんが自分に会いに来るのはプレゼントをもらえるから、美味しいものを食べられるから。それがなくなればあの子達はきっと家には来なくなる。

女性は月に一度の楽しみ、尊い時間が消え去るのを何よりも恐れていました。『遠くから来てくれる娘にも本当に感謝しています。だからこそ、家に来て何ももてなすものがないなんて言えないんです』

女性は悲痛な表情(悲しみ表情)を浮かべます。『こんなの言い訳ですよ？分かっています。こんなに寂しい想いをするくらいなら、皆さんにご迷惑をかけるくらいなら…早く死んでしまった方が世のためですよ』

瞳に涙を浮かべる女性…。そんな、女性に僕は言いました。『〇〇さん、お孫さんはそんな風には思っていないよ』女性が僕の言葉に顔をあげます。

『子供のころ年に2回、僕は祖父、祖母のいる母の実家に泊まりに行くのを楽しみにしていました』夏休み、冬休み、年に2回ほど宿泊を兼ねて遊びに行きます。『祖父と祖母は僕たちのためにいつも、美味しいお寿司屋さんを予約して、連れて行ってくれまし。本当にとても楽しい時間でした』

ただ、それは楽しみの一つであって、それが全てではない。そんなものがなくとも、僕は祖父、祖母のいる優しい場所で夏と冬の長期休暇を過ごす時間がとても好きだったのです。一緒にテレビをみたり、漫画を読んだり、公園に行ったり、豪華な食卓でなくとも、なにも

プレゼントがなくとも。祖父、祖母が笑顔で迎え入れてくれるあの場所と時間こそがかけがえのない宝物でした。

僕は真っ直ぐに女性を見て伝えます。『○○さん、娘さんもお孫さんもあなたに会いに来ているんです』僕の言葉に真っ直ぐ見つめ返す女性。『娘さんがそんなことを言いましたか？お孫さんが言いましたか？違いますよね？…あなたに会いたいから遊びに来てくれるんですよ』

贅沢なおもてなしなんてしなくてもいい、玩具のプレゼントなんてなくてもいい。『○○さん、あなたが元気で笑顔で迎えてあげることこそが…なによりのおもてなしになるのではないのでしょうか？』

僕の言葉にぼろぼろと涙を流す女性。『大切なお孫さんのためにも犯罪者にはならないでください』僕の言葉に涙ながらに頷き女性は言います。『あなたのようなお孫さんを持ったお二方(祖父と祖母)は幸せでしょうね。こんな私の話を真剣に聞いてくださりありがとうございます』

女性は二度と万引きをしな。自分自身と何より大切な娘と孫のために約束を交わしてくれました。

この後、臨場した警察官の判断によ、女性は盗品の買取、弁済で処理が完結することになります。警察官と一緒に店舗を後にする時、女性は僕のところに来て再度、頭を下げてくださいました。

きっと彼女は二度と万引きをしないでしょう。なぜなら、もう万引きをする理由がなくなったのですか。

"万引きの理由なんてどうでも良い"店長はもとより、保安員もこのように言う方が非常に多い万引きの現。確かに犯罪被害者である店舗にはそれら犯人の動機なんて関係ありません。

しかし、万引き犯は最初から万引き犯だったのでしょうか？いいえ、違います。以前は善良で店の売り上げに貢献してくれていた常連のお客様だったのです。お客様が万引き犯に変貌する時、そこには万引き犯に変貌する"理由"が必ず存在します。

この女性のように万引き犯に変身するための理由＝変身アイテムを持っているのです。店舗の常連客が常習的な犯罪者になった理由を見つけられたな。きっと、善良なお客様に戻してあげることできるはずです。

万引き＝窃盗は最低な行為です。ただ、それは誰もが知っていること。万引きに手を染める誰もがそれを知っています。ただ、知っていても手を染めてしまうところ、人間の弱さ、葛藤、苦しみ、悲しみが隠されています。

ただ、ただ罵倒し、怒りをぶつけるだけなら誰でもできます。怒りを持って正義を振りかざすことは被疑者の動機を見つけ出し、心と向き合うことよりもはるかに手っ取り早く、簡単なのです。

"罪を憎んで人を憎まず"彼らが犯罪者になるための理由＝変身アイテムを手離せるのと

ができたなら、きっと店舗も彼らも幸福になれるのではないのでしょうか？

自分よりも歳上の人の説諭は難しい。ただ、それでも自分の経験や思いから伝えられることは必ずあります。僕には祖父、祖母と一緒に過ごしたかけがえのない経験(時間)が教えてくれた孫としての"想い"を持っています。それを教えてくれた祖父、祖母に感謝しています。

女性が善良なお客様に戻った今、きっと娘さんとお孫さんとのかけがえのない時間を今以上に大切に過ごすことができるはずです。ここに女性とその家族の幸福を願い、体験談としてお伝えさせていただきます。